
手が届かなくて...

宮野 紗優梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手が届かなくて…

【Nコード】

N0873X

【作者名】

宮野 紗優梨

【あらすじ】

女子高生岩崎 悠美いわさき ゆみと、予備校の担任の先生との小説。

冷たい態度の担任に戸惑いながらも、たまに見せる彼の優しさに心惹かれていく悠美。

この気持ちはただの憧れか、それとも……

あなたとの出会い（前書き）

文章力が全然ないですが、頑張って書きたいと思います；

少しでも楽しんでいただけたら嬉しいです（笑）

あなたとの出会い

貴方に最初に会ったのは、そう、暑い暑い高校二年の夏でした…

女子高に通っている岩崎^{いわさき} 悠美^{ゆみ}。

出会いなどももちろんなく、彼氏はいたこともない。

彼氏が欲しいと思うことは何度か会ったが、そこまで思い入れなどなかった。

なんとなくそのうち彼氏ができて、そのうち結婚するんだろうなというあいまいな考えをしていた。

とりあえず、今彼女の目の前にあるのは……

『これはヤバイ……』

返却された紙……そう、高校生の敵、模試の結果であった。

彼女は特別勉強ができないわけではないが、薬学部を志望し、理系に進んだ彼女は数学という壁を越えなければならなかった。

『理系で偏差値50切るってありえないよね……。どうしようか……』

理系に進んだ自分を恨めしながら、今日もため息をつく悠美。そんな時だった。

机に散らばった郵便物を見ていた時、一つの招待状を見つけた。

それはよくある、塾や予備校への勧誘の紙だった。

小学生時代、中学受験をしていた彼女は、塾というものにあまりいい印象を持てなかった。

しかし、家から近いのと、無料という言葉に誘われ、夏休みの夏期講習を受講することに決めた。

『じゃあ、こちらでいいですね？』

『はい、お願いします。』

申し込みを済ませると、悠美の家に電話がかかってきて、一度校舎に来てほしいと言われたので、電話の後すぐに悠美はその予備校へと向かい、概要を聞いた。

そして次の日から彼女は授業を受けるために毎日その塾へ通った……

『暑い……』

その年は特に暑い日が多く、猛暑日が続いていて予備校に行くのが辛くてしょうがない日々だった。

と、言いつつも、せつかく申し込んだから、と夕方涼しくなってから、彼女は毎日毎日通った。

そんな日々が続いて二週間。夏休みも八月に突入していたある日、いつものように授業を終えると予備校の先生に呼び止められた。

『岩崎さん、今日担任の先生と面談だよ』

『あ……はい、わかりました……』

一応夏休みだけの生徒なのに担任なんていたのかとちょっと驚きながら、担任が待っていると言う面談室へ向かった。

『失礼します……』

『ああ、どうもこんにちは』

……？これが担任……？

ずいぶん失礼なことを思ってしまった悠美。

入ったばかりであり先生たちの顔をおぼえていないが、その人は明らかに他の先生と違ってた。

なんて言うか……変。

前髪がやたらと長く、黒ぶち眼鏡をかけているため顔がはつきりしない。背が高いがやけにほっそりしてる。ああ、これが俗に言う草食系男子というやつか……。

……それが、彼との出会いでした……。

あなたとの出会い（後書き）

実験を基にしているので、まだまだ行く末はわからない！！

今後の展開に乞うご期待

ずっと先の事（前書き）

前回より少し短いですが、
ちよつと今は時間が無くて書けません；

ずっと先の事

『いや、優秀ですね、岩崎さん』

『あ……どうも……』

どうにもマイペースな担任に戸惑う悠美。

学校の様子や、志望校などを粗方聞いた後、彼は笑いながらそう言った。

(……ちよつと、変な人だけど、面白い人だな……)

悠美はいい人に出会ったと内心ほっとした。

その時から悠美は担任に夏休みの計画を立てるのを手伝ってもらったり、勉強を教えてもらい、夏休みが終わってから、その予備校へ通うことに決めた。

季節がめぐり、夏の猛暑は秋の涼しい気候に移り変わっていた。

秋からの講座も決め、週に数回授業を受けに予備校へ行く。

時にかつたるくてサボってしまう時もあったけど、予備校の先生方は皆優しく、とても雰囲気の良い所だった。

何度目かの面談の時、担任の出身大学を聞いたら、某有名大学でびつくり。

ああ、この人は本当に頭がよかったのだと悠美は感心した。

何度か面談を重ねるごとに、担任の悪いところも少し見えるようになり、時に嫌気がさすようになった悠美。

しかし、担任の指導は確実に悠美を志望校へ導いているとわかるようになるのは、ずっと先の事だった。

そして担任に対する大きな信頼に気付くのも、ずっと先の事だった。

⋮

ずっと先の事（後書き）

この次はもうちょっと長く書けるように頑張ります；

とりあえずテスト勉強頑張ろう↑受験生

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0873x/>

手が届かなくて...

2011年10月9日15時24分発行